



2017(平成29)年に開催される「<sup>えがお</sup>愛顔つなぐえひめ国体」。今年度の「みきゃん通信」では、鬼北町で行われる民泊に協力いただき、24の民泊協会の会長から民泊に向けた意気込みなどを聞いていきます。(※紹介順は届け出順です)

## O-YADO民泊協会(大宿/愛治地区)



会長 久保田 安夫

選手たちが喜んでくれるなら、少しでも選手の力になりたいと、すぐさま民泊協会の立ち上げを決意したO-YADO民泊協会。「世話好き、料理好きの人が多き地区やけん、わしらにぴったりなんよ」と笑顔で話す久保田会長でしたが、今はまだ手探り状態のため、期待と不安が入り混じっているといます。

久保田会長は「一期一会」をととても大切にしている、今回の民泊でも、その出会いを心待ちにしているそうです。また、選手たちの笑顔が見られるのが1番の楽しみだという久保田会長。「その笑顔が見られるか見られないかは、私たちの頑張り次第なので、できることを全てやりたい」と意気込んでいました。

「選手たちがえひめ国体で、100%の力が発揮できるように全力でサポートし、大宿に泊まってよかたなと思ってもらえるような民泊にしたい」と語る久保田会長の目には、希望が満ち溢れていました。

## 鬼北の里民泊協会(鬼北の里/近永地区)



会長 佐藤 邦雄

若い世代の家庭が多い鬼北の里地区には、いつも子どもたちの元気な声が響き渡っています。そんな子どもたちに民泊を通して、夢と希望を与えたいと、民泊協会の立ち上げを決意しました。

鬼北の里には県外からの移住者も多く、佐藤会長もその1人。「地元の人には当然となっている鬼北町の景色も、外から見ると、環境に恵まれたとても良い場所。この良さを若い選手たちに伝えたい」と意気込んでいました。また「この民泊を通して、鬼北の里がより一層団結できる素晴らしいチャンスだ」と嬉しそうに語っていました。

「元気な笑顔で迎える鬼北の里」をテーマに掲げ、随時機関紙を発行するなど、更なる盛り上がりを図る鬼北の里民泊協会。大人も子どもも一丸となって、選手たちを出迎えたいと、笑顔で語っていました。「民泊は成功します。絶対に！」と締めくくった佐藤会長の目には自信が満ち溢れ、とても輝いていました。